

市民学芸員制度 —その始動とはぐくんだ環境—

市民学芸員 横田 康男



富士見市の市民学芸員制度は、市民（資料館友の会）と行政（考古館（現水子貝塚資料館）・難波田城公園開設準備室）とがそのニーズを共有し、協力して立ちあげてきた制度だと思えます。

平成9年8月、資料館友の会（以下友の会）は全会員に『あなたは市民学芸員制度が発足した場合協力出来ますか』とのアンケートを実施しました。結果は、はい・33名、いいえ・6名、（会員数51名）でした。33名の会員が協力可能であればと、平成10年5月友の会総会において市民学芸員制度を立ち上げるべく、検討委員会設立を提案し、承認されました。5月17日早速検討委員会を設立。調査、学習を開始しました。現在ご活躍の塩入さん、中山さんも検討委員でした。高山市飛騨民俗村などを訪ね施行錯誤の学びでしたが、翌平成11年2月提案書がまとまる運びとなりました。友の会は検討委員会の報告を受け、浅野館長宛に「難波田城公園開設に伴う市民学芸員制度（仮称）の確立について（ご依頼）」を提出しました。検討委員会は市民学芸員制度設立実行委員会と名称変更しました。依頼書提出後も、メンバーは川越城下町案内見学や江戸東京博物館視察などを実施し研鑽^{けんさん}を積みました。江戸博ではガイドの運用システムについて学び、運用マニュアルも頂いてきました。社会教育課に提出し、とても喜ばれたことを記憶しています。

平成11年9月友の会と公園開設準備室との懇談会が開催されました。（出席は行政から浅野昭夫室長・市川

信男リーダー、友の会からは会長、実行委員長、委員全員、計12名）。懇談会の内容は、市民学芸員制度立ち上げの説明でした。（1）当制度が庁内で具体化したこと。（2）近々、市民学芸員制度養成講座参加者の募集を行う。基礎講座、専門講座の2段階。（3）市民学芸員は質の高いものにしていきたい。

平成12年5月、市民学芸員制度設立の具体化が見えたので、友の会は総会において市民学芸員制度設立実行委員会を解散しました。

この時期は、市民にできることはできるだけ市民の手でという風が吹いており、その意味では時代が良かったのかとも思います。しかしながら今になっても思い出すことは、資料館担当職員さん方の熱心な対応であります。なんとしてもこの制度を立ち上げていただきたいという市民の強い願望に、行政は熱心に耳を傾け、その都度、行政内での検討の進捗状況などを丁寧に伝えていただけたことです。感謝の極みです。

残念なこともありました。「市民学芸員制度は、市民との協働のもと、市民の力を借りた財政の削減政策の一環」との発言を耳にしたことでした。でも私達の希望はかなえられたのです。満足しています。

平成12年8月26日、第1期富士見市立資料館市民学芸員委嘱^{いしよく}状交付式が挙行されました。難波田城資料館では27名の市民学芸員が誕生しました。

一方、当時この制度の立ち上げについては、市民と行政の協働の結果として市外からも関心呼びました。

（埼玉大学における社会教育主事講習、教育学部でのゼミ、県立浦和図書館、社会教育研究会での発表等）。

これらの活動も資料館職員や関係する方々のご支援によるものです。「難波田城だより」は60号を迎えました。これからも多くの人たちに喜ばれ、何度でも行ってみたいと思っただけの難波田城公園になるよう私達市民学芸員もお手伝いしていきたいものです。

市民学芸員のページ *1 ページから 6 ページは市民学芸員 (広報担当) が原稿を執筆、編集しました

特集 1 市民学芸員座談会 『難波田城公園・資料館、市民学芸員の今、そして未来へ』

【はじめに】

市民学芸員の現在の活動、そしてこれからの展望に興味を持っていただきたく、今回は研修・体験・広報の各班から、参加者を募り座談会を行うことにしました。難波田城資料館の市民学芸員はガイドなど通常の活動のほかに、それぞれがいずれかの班に属し活動をしています。また 3 年ごとに募集をしているので特定の期に偏らないようにしました。

読者の皆様にも、ぜひ何らかの形でご参画いただければ幸いです。



広報班 今月の「難波田城だより」で 60 号、年 4 回の発行ですので、15 年分になりました。これを記念とし今号を特集号にしました。資料館開設当初から、その活動の一翼を担っている市民学芸員制度、その中で活動している我々ですが、今回この場で、その活動を振り返りたいと思います。では、司会者の方をお願いします。

司会者 今日は次の 3 つのテーマについてお話をいただきたいと思います。(1) なぜ市民学芸員を志したか、(2) これまでの活動で印象に残っていること、そして(3) これからの市民学芸員活動の展望についてです。それではよろしくお願いたします。

【市民学芸員を志した理由】

古澤(1 期。体験班) ①本制度が始まる一年前に富士見市に転居し、地域の歴史文化に関わる取組みに興味があった、②博物館への市民参画に興味があった、③難波田城資料館の開館に立ち会える、という 3 点が理由でした。

小森(1 期。研修班) 自分は仕事でボランティアに深く関わり、それを機に学芸員の資格を取得しまし

た。そして、定年間近、何かしたいと考えているとき、募集があったので応募しました。当初は水子貝塚資料館で活動していましたが、3 期を節目に難波田城資料館へ移り、今は両館で兼務しています。

酒井(3 期。体験班) たまたま古民家に目が付き、難波田城公園の存在を知り、自分の好きな古い物に関われればと思い応募しました。

西尾(4 期。広報班) 歴史に興味があり、その中でも文献史学なら難波田だ、と思い応募しました。また、常々、富士見市に資料館が二つあるのは大きな財産で、これを維持していく一助になればと思ってもいました。

池田(5 期。研修班) まず水子貝塚を知り、その後、難波田城資料館の開館を知り、応募しました。身近な民俗、歴史を知り、将来へつなげたいという信条があり難波田を選びました。

司会 池田さんは難波田城資料館のことをお知りになってからご参加下さるまで 10 年ほど期間がありますが、何か理由は？

池田 遠方につとめていたので、定年までは参加できませんでした。

西尾 酒井さんは仕事をしながらの参加で、苦労も多いのでは？

酒井 やりくりは大変ですが、好きだ、ということが後押ししてくれます。

小森 私も定年前から活動していましたが、好き、ということに尽きると思います。

【活動を続けられる理由】

司会 市民学芸員さんの大半が活動を継続なさっていますが、その理由は？

古澤 ボランティアの捉え方は様々ですが、活動は自分のできる範囲に関われれば良いと思う。肩の力をぬいて参加できたことが続けられた理由です。

酒井 これも、好きだからです。

小森 私の場合は、一度始めたらやめられない性格、一生懸命やろう

という気持ちで続けています。

西尾 今出た二つのあり方、できる範囲でやっつけようとする人と、のめり込んで質を追求していく人がいる、この辺の整理の仕方がこれからのテーマになるのではないのでしょうか？

【これまでの活動を顧みて】

司会 当初の見学ガイド中心から、イベント支援の比率が高まっていますが、まずはガイドツアーについて…



池田 歳をとっても人と接することは楽しく、ガイドを希望する人もやりとりを望む人が多い。その中で上から目線ではなく、対等に人と接することができるのがうれしいです。

西尾 来園者にはこちらから話しかけると、色々な話が入ってきますね。あわせて聴く姿勢も必要ですが。

小森 私は、テキスト通りの説明にならないよう、相手の考えに沿って話をするよう意識しています。

古澤 相手に合った話し方は確かに必要ですね。私の場合はそれに加えて、館にある写真や、説明板など、視覚に訴えるものを用いてガイドしています。

小森 水子貝塚資料館との関連を併せて説明することもあります。

【イベントについて】

司会 イベントのうち毎週末行われる「ちょこっと体験」について伺います。ちょこっと体験は体験班が主に企画していますが、班長の酒井さん、いかがでしょうか？

酒井 ガイドを希望する方が相対的に減り、リピーターが増えた結果、ちょこっと体験のニーズが増えていると思います。ですので、ちょこっと体験はワンパターンに

ならないように意識しています。

小森 ちょこっと体験は、市民学芸員が持っている特技や知識をいかにしながら、それを皆でサポートするような体制作りが必要なんじゃないでしょうか。

酒井 そう思います。です。今では、体験の内容を前もって決め、対応できる人が複数いるようにしています。

古澤 ガイドツアーのニーズが相対的に減った際、市民学芸員がちょこっと体験に関われるようになったのはモチベーションの維持という点で有意義だったと思います。

【季節感のあるイベントなど】

司会 季節的なイベント、例えば難波田城公園まつりや夏休み宿泊体験などで印象に残っているものは？

古澤 難波田城公園まつりで武者行列に参加するために鎧を着用しましたが、これは自身の思い出にもなっています。



酒井 夏休みの古民家宿泊体験は古民家に泊まれる唯一の体験。こんな貴重な体験はないと思う。あとは夜の反省会での市民学芸員同士の交流も魅力的です。大人が古民家に泊まれる体験があってもいいかと思います。

古澤 宿泊体験は市民学芸員の貢献度が高く、それにより年々内容が充実してきているものの一つだと思います。ぜひ続けていってほしいイベントです。

酒井 あとは、参加した子どもたちが中高校生になったときに手伝いにこられるシステムもあっていいと思います。

古澤 その他に田んぼ体験隊、これも一年を通しての活動である点、そして園内にある古民家など様々なものと関連付けられる点から今後、市民学芸員が積極的に関わってい

ける可能性のあるイベントだと思います。

司会 座談会はたまたま男性のみとなりました。実際は女性の方も多く活躍なさっていますね…

小森 性差というより、個人差が大きいのでは。ただ実際、女性の方は、それぞれの特技を活かしたイベント運営をなさっており、良い刺激をいただいています。

古澤 活動に男女差はないと思いますが、でもやはり、女性ならではの取り組みがあり、これは市民学芸員全体の活動で活かしていく必要があると思います。

【今後の展望】

司会 最後になりますが、市民学芸員活動の今後の展望についてお聞かせ下さい。

池田 活動と、家庭、自分のやりたいことなどの兼ね合いもあるが、その時々でバランスをとっていければと思っています。

小森 市民学芸員同士が互いの知識を共有できる機会を設けていければ、と考えています。

西尾 難波田城の活動は幅広いので、少数のプロだけではやっていけません。多くのアマチュアが難波田城を盛り上げています。アマチュアには当然無理なこともある。そこは無理をせずに、自分のできる範囲で活動していければと思っています。

古澤 学校の体験学習への手伝いは初期にはなかったが、これは良いことだと思っています。未来を考えたとき、これからの難波田城に愛着をもってもらうことにつながる。学校への関わりは、より進めていくと良いのではと思います。



小森 他に福祉の面での役割ということも考えてよいのでは。デイ・サービスの方の利用は多く、ガイドをしても良い反応をもらえ

ることが多いので。

酒井 近くの子は来やすいが、遠くの子はまだ来るのが大変だと思う。そういう意味でアクセスの改善を検討すべきだと思っています。レンタルサイクルの設置なども良いかと思います。

西尾 今の市民学芸員制度をよりよくして、参加希望の方へ間口の広い形にできればと思っています。

【養成講座について】

司会 市民学芸員の養成講座と実際の活動のあり方についてどう思いますか？

池田 講座終了時にお互いにガイドをシェアする機会を設けてもいいのではないのでしょうか。他の人のやり方をみて自分のガイドを改善することができますし。

古澤 新規の人が増えるような講座にしたい。そのためにモチベーションを維持できるように、市民学芸員になることの魅力を広報などを通して知ってもらいたいと思います。

池田 今度の養成講座は、団塊の世代の方が定年を迎えられる中で、どれだけその方々の協力を得られるか、という意味でも大事だと思います。

西尾 市民学芸員制度の充実にはまだまだ人数が必要だと思います。

【その他質疑など】

司会 その他、何かございますか？

古澤 1 頁で市民学芸員制度の創立過程について書かれた横田さんに伺います。記事では、「市民学芸員は質の高いものに」という一節がありましたが、現状はどう思われますか？

横田 質の高さもさることながら、全員の取り組みに対する自主性や情熱がとても大切だと思います。現状は皆さんの活動が盛んで、実現に近づきつつあると思っています。

司会 話は尽きそうにありませんが、時間が来ましたので。

広報班 どうも皆様ありがとうございました。

全員 ありがとうございます。

(文責 広報班)

特集 2 難波田城だよりインデックス

号	発行日	表紙(1頁)	2頁	3頁
1	平11.02.10	『歴史公園開設準備室だより発行にあたって』	特集(1)「資料館と野外博物館」	特集(2)「昔の民家を再生する・その目的と意義」
2	平11.06.10	『名主の家のたたずまいを残す大澤家住宅』	特集 難波田氏の歴史①「鎌倉時代の難波田氏と武蔵武士」	
3	平11.10.10	『半農半商の家・旧金子家住宅』	特集 難波田氏の歴史②「南北朝・室町時代の難波田氏」	人の創った道具・人の使った道具(⇒以下道具と略す)「米をつくための臼と杵」
4	平12.02.10	『名主屋敷の長屋門 -旧鈴木家表門-』	特集 難波田氏の歴史③「戦国時代の難波田氏」	道具「むかしの暖房器具」
5	平12.09.10	『空から見た難波田城公園』	特集(1)常設展示室紹介①「富士見の自然」	特集(2)「みんぞく歳時記①「お月見の話」 道具「石臼は人類の大発明?」
6	平12.12.10	『市民学芸員によるガイドツアー』	特集(1)常設展示室紹介②「中世 武蔵武士と難波田氏」	特集(2)「みんぞく歳時記②「お正月の話 ~大正月と小正月~」
7	平13.03.10	『旧金子家のたたずまい』	特集(1)常設展示室紹介③「中世 戦国の城・難波田城」	道具「台地の井戸と低地の井戸」
8	平13.06.10	『鎌倉道と湧き水を訪ねる -春の文化財めぐり-』	特集(1)常設展示室紹介④「中世 祈りと信仰」	道具「養蚕の黄金期を語るマフシオリ機」
9	平13.09.10	『10万分の1のありがとう -開園1周年まつり-』	特集 常設展示室紹介⑤「近世 御鷹場」	道具「ご飯を炊いた釜とカマド」
10	平13.12.10	『夢を育む歴史のまち -市民学芸員視察研修(福島県白河市)から-』	特集 常設展示室紹介⑥「近世~近代 新河岸川舟運」	道具「千歯コキ」
11	平14.03.10	『春季企画展「ちよっと昔の着物語」~のら着・よそゆき・ちよいちよ着~』	特集 常設展示室紹介⑦「近代~現代 東上線と鶴瀬駅」	道具「のら着の派手と地味」
12	平14.06.10	『難波田城のお膝元を歩く -市民学芸員初夏の文化財めぐり-』	特集(1)常設展示室紹介⑧「近・現代 戦時下の暮らし」	特集(2)「みんぞく歳時記 ノゲシノイブシ~ 妻の収穫儀礼と田村麻呂伝説~」
13	平14.09.10	『昔の道具で豆腐づくり』	特集 常設展示室紹介⑨「現代 戦後の混乱と復興」	道具「箕のいろいろな使われ方」
14	平14.12.10	『私の富士見30年 -写真展 富士見の暮らしてきごとから-』	特集 常設展示室紹介⑩「現代 都市化のはじまり -団地の進出と人口増加」	道具「農家の冬支度を支えた縄ない機」
15	平15.03.10	『私の思い出 -大澤家と新河岸川-』	特集 常設展示室紹介⑪「現代 富士見の町村合併」	道具「織物業の歴史を語る機織り機」
16	平15.06.10	『私の青春時代 -企画展「記憶の扉1972」から-』	四季の難波田城公園	道具「水冷蔵庫と食品の保存」
17	平15.09.10	『とって面白くするためになる「ちよこつと体験」』	難波田城知恵袋-第1袋-(⇒以下知恵袋(数)と略す)城はないけど難波田城? おもしろなつかし体験(⇒以下体験と略す) (1)「夏休み古民家宿泊体験」 難波田城目安箱から	道具「下駄の歴史と聖なる力」
18	平15.12.10	『金子家の「つるっ子」』	知恵袋(2)「難波田城なんじゃ! 門じゃ!」 体験(2)「拓本教室」 難波田城目安箱から	道具「電吐水と腕用ポンプ」
19	平16.03.10	『勘違いしていた碑-春季企画展「富士見の板碑」から-』	知恵袋(3)「善銀あれこれ1 善銀は悪人?」 体験(3)「数珠玉の腕輪づくり」 難波田城目安箱から	道具「畑を田にした揚水ポンプ① ~東大久保地区蛭沼の陸田開拓~」
20	平16.06.10	『南畑って』	知恵袋(4)「善銀あれこれ2 二回死んだ? 善銀」 体験(4)「よろいを着てみよう」 難波田城目安箱から	道具「畑を田にした揚水ポンプ② ~東大久保地区蛭沼の陸田開拓~」
21	平16.09.10	『“十八番・おはこ”はどっから来たの』	知恵袋(5)「古民家(屋根物語)」 体験(5)「はたおり体験」	道具「畑を田にした揚水ポンプ③~東大久保地区蛭沼の陸田開拓~」
22	平16.12.10	『つれづれなるままに「扇たこ」をめぐる -郷土民芸を大切にしよう-』	知恵袋(6)「肩透かしを食った難波田氏再興の深大寺城」 体験(6)「わら草履づくり体験」	道具「キセルを直す道具と和菓子屋」
23	平17.03.10	『南畑の狍犬たち -教育ババの先駆け? 狍犬にみる親心-』	知恵袋(7)「古民家ゾーンでワラ探し」 体験(7)「竹ぼっくりづくり」	道具「南畑に製縄特攻隊?~昭和20年の新聞記事から~」
24	平17.06.10	『半世紀前の新河岸川より』	知恵袋(8)「名主・大澤家の江戸時代の様子」 体験(8)「ちよこつと体験「春の草花でしおりづくり」	道具「木挽きノコギリ」
25	平17.09.10	『難波田城水堀ものがたり』	知恵袋(9)「難波田氏一行がやってきた」 体験(9)「かざぐるまづくり奮闘記」	道具「市内に投下された爆弾の破片」
26	平17.12.10	『湧き水を見直したい』	知恵袋(10)「後北条氏滅亡-その後の難波田氏一族は-」 体験(10)「ちよこつと体験「オリジナルコマづくり」	道具「市内に投下された爆弾の破片2」
27	平18.03.10	『古民家への誘い』	知恵袋(11)「鎌倉道」と難波田氏 体験(11)「じゅず玉の腕輪づくり」	道具「難波田城跡出土の道具1」
28	平18.06.10	『小田原・箱根を歩いて』	第三期市民学芸員が委嘱されました! 体験(12)「オリジナル鯉のぼりと兜づくり」	道具「難波田城跡出土の道具2」
29	平18.09.10	『日本の暦 十干十二支』	知恵袋(12)「難波田城公園基本計画から開園まで」 体験(13)「藍の生葉染め」	道具「難波田城跡出土の道具3」
30	平18.12.10	『岩槻視察研修』	知恵袋(13)「難波田城公園基本計画から開園まで②」 体験(14)「とんとん相撲」	道具「箱膳と昔の食事①」
31	平19.03.10	『野火止用水あれこれ』	知恵袋(14)「難波田城公園基本計画から開園まで③」 体験(15)「凧づくり」	道具「箱膳と昔の食事②」
32	平19.06.10	『金子氏ゆかりの地を訪ねて』	難波田城公園歳時記「四季おりおり」夏 体験(16)「折り紙のかぶと作り」	道具「般若院の護摩道具」
33	平19.09.10	『歩いて走った五十三次往復 -旧東海道を徒歩と自転車-』	難波田城公園歳時記「四季おりおり」秋 体験(17)「田んぼ体験隊」	道具「般若院の修験道具」
34	平19.12.10	『鉄道に歴史あり』	難波田城公園歳時記「四季おりおり」冬・新春 体験(18)「ベットンボ作り」	道具「富士見市の押し絵羽子板」
35	平20.03.10	『前耕地観音堂の「北向き観音」』	難波田城公園歳時記「四季おりおり」春 体験(19)「マイ箸づくり万歳!」	道具「新河岸川 船の道具1」
36	平20.06.10	『嵐山・杉山城跡を尋ねて』	常設展示室-富士見の自然- 体験(20)「オリジナルかぶとづくり」	道具「新河岸川 船の道具2」
37	平20.09.10	『「小江戸検定」へのチャレンジ ~点から線に変わる郷土史の知識~』	常設展示室②-中世- 体験(21)「夏の風物詩 ゆかた着付け教室」	道具「新河岸川 船の道具3」
38	平20.12.10	『鎌倉街道』	常設展示室③-近世- 体験(22)「十三夜のだんごづくり」	道具「鉱石ラジオ」
39	平21.03.10	『風のあゆみ -アジア編-』	常設展示室③-近代から現代- 体験(23)「七輪でお餅焼き」	道具「稲作の道具1」
40	平21.06.10	『風のあゆみ -日本編-』	難波田城公園~春~ 体験(25)「田んぼ探検隊・田植の巻」	道具「稲作の道具2」
41	平21.09.10	『まず、資料館へ連絡を! ~ガラクタが宝物へ変身~』	難波田城公園 ~夏~ 体験(26)「夏休み古民家宿泊体験」	道具「稲作の道具3」
42	平21.12.10	『関宿城と逆井城』	難波田城公園~秋~ 体験(27)「さつまいも掘り」	道具「灯りの道具」
43	平22.03.10	『富士見市に鶴(タンチョウ)が居た?』	難波田城公園~冬~ 体験(27)「オリジナル羽子板・コマづくり」	道具「醤油づくりの道具」

44	平22.06.01	『近くて遠い滝の城(所沢市を訪ねて)』	古民家のならわし夏編「七夕のお話」 体験(29)「みそ・しょうゆのおにぎりづくり」	道具「醤油屋の徳利」
45	平22.09.01	『水塚の効用』	古民家のならわし秋編「お月見のお話」 体験(30)「牛乳パックの紙すき」	道具「養蚕の道具」
46	平22.12.01	『大宮(さいたま)側から見た川向こうのこと』	古民家のならわし冬編「すず払い(大掃除) 門松 注連縄 正月飾り」 体験(31)「第三土曜は『いろりの日』」	道具「10年間のいただきもの」
47	平23.03.01	『明治43年の米一升は17銭 -水害時炊き出しの記録-』	古民家のならわし 春編 ひな祭りの話	道具「水害と水害舟」
48	平23.06.01	『貞観の大地震 -1142年前の三陸大震災-』	こんなお宝がありました(資料館編)(⇒以下こんなお宝と略す) 「月待板碑」 体験(33)「水でつぼう」	道具「水害の記録」
49	平23.09.01	『水害時の助け合いの記録』	こんなお宝「むしろはたでわらむしろを作るビデオ」 体験(33)「シュロの葉バッタ」	常設展示”外”説「末の松山」
50	平23.12.01	『水害が起きないように願って』	こんなお宝「水谷の『まとい』」 体験(34)「クリスマスリース」	道具「中世の多門氏館跡」
51	平24.03.01	『東京オリンピックの想い出 ～支えた一人として～』	こんなお宝「竜吐水」 体験(35)「消防訓練」	道具「夏を涼しく冬を暖かく」
52	平24.06.01	『市制40周年事業「古民家結婚式」に思うこと』	こんなお宝「農機具『マンガ』と『代かき』について」 体験(36)「ビニールだこづくり」	道具「世界を制した砲丸」
53	平24.09.01	『にわたりみなる平井城址へ』	こんなお宝「田打車」 体験(37)「わりばし鉄砲(難波田城公園まつり編)」	道具「花嫁衣裳と嫁入り支度」
54	平24.12.01	『穀蔵展示「昔の結婚式」によせて』	こんなお宝「千歯こきと足踏み脱穀機」 体験(38)「すずきミズづくり」	道具「写真でみる40年前の富士見」
55	平25.03.01	『サグラダ・ファミリア(聖家族贖罪教会)』	こんなお宝「唐箕と万石」 体験(39)「かわいいおひな様づくり」	道具「ベッドタウンの制服史」
56	平25.06.01	『新島八重のふるさと会津鶴ヶ城』	こんなお宝「田舟は古代から」 体験(40)「パラシュートづくり」	道具「キリシタン禁止の高札」
57	平25.09.01	『“縁結び”難波田城公園・東京大神宮』	こんなお宝「馬耕機(犁・犁)」 体験(41)「案山子づくり」	道具「あそびのうづりかわり」
58	平25.12.01	『これからの富士見市(暮らしやすく、人と自然が共生できるまち)』	こんなお宝「フイゴ」 体験(42)「わらぞうりづくり」	道具「富士見文化財かるた」
59	平26.03.01	『綿を育て糸を紡ぐ』	こんなお宝「水害船(上げ舟)」 体験(43)「扇だこづくり」	道具「耕地改良と農業の機械化」
60	平26.06.01	『市民学芸員制度 -その始動とはぐくんだ環境-』	こんなお宝「自噴井戸」 体験(44)「市民学芸員研修」	道具「南畑地区の用水」

「難波田城だより」でふり返る「難波田城まつり」

上の表ではこれまでの記事の一覧を収録しました。また、開園以来、人気を呼んでいる「難波田城まつり」を「難波田城だより」でふり返り、もっとも印象深い記事を下に再録しました(25号より)。

難波田城知恵袋—第9袋—

難波田氏一行がやってきた!

このコーナーでは、難波田城公園に関するいろいろな疑問を取り上げ、解説します。

平成17年6月5日、難波田城公園まつりの日。賑やかな富士見太鼓の打ち鳴らす音の中、難波田氏の子孫ご一行が遠路、遠州浜松(静岡県)から来園されました。ご一行は車椅子利用のご高齢ではありますがしっかりと口調の女性を中心に、総勢19名でした。

聞くとところによると、この女性が難波田本家の奥方で、ご当主はすでに他界されたとのこと。また、公園整備前の難波田城跡にこられた事があるそうで「当時は何も無かったのに立派になりましたね。今日は自分の子供6名と孫たち一同でやってきました」とのことでした。

一族の方々がおばあちゃんをねぎらうように付き添う姿が印象的でした。

ちなみに戦国時代以後の難波田氏は、『寛政重修諸家譜』によれば天文15年(1546)の河越夜戦で討ち死にした難波田善銀のひ孫にあたる難波田憲利は文禄元年(1592)に徳川家康に召し出され、後に徳川秀忠に仕えたということです。憲利は、62才で没し、東京都豊島区雑司が谷の法明寺に葬られたと記されています。現在も法明寺に難波田氏の墓碑があります。



なお、バックナンバーは、54号以降は富士見市公式ホームページで、それ以前の号については資料館で見ることが出来ます。

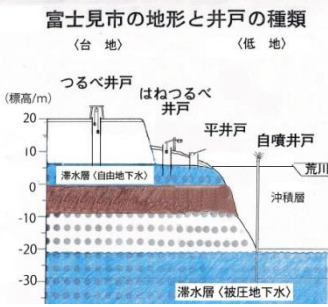
(文責 広報班)

こんなお宝がありました

自噴井戸 じふん

園内の長屋門と穀蔵との間に「自噴井戸」が復元されています。この井戸は低地である南畑みなはたで使われました。

自噴井戸は、圧力のかかった滞水層(被圧地下水)まで 30 m ほど掘り、地下水を地上に噴き出させます。そのため水を汲み上げる仕掛けはありません。地元では、これを「掘り抜き井戸」または「突き抜き井戸」と呼んでいました。噴き出した水は「井戸ガワ」という高さの違う枠を二段から三段(ここでは三段)並べて置き、水が順々に流れ落ちて溜まるようになっていきます。それぞれの「井戸ガワ」に溜まった水の使い方は家により多少違いはあるもの、おおよそ次のように区別されて使われていました。いちばん上の水は、飲み水や煮炊き用、次は衣類の洗濯用、いちばん下は鍋・釜あるいは野菜を洗いました。その他の地域では図のように、台地上では 10 数 m 掘ると滞水層(自由地下水)に届くので「つるべ井戸」を使って汲み上げ、台地と低地の中間にあたる箇所では、自由地下水が浅いため「はねつるべ井戸」「平井戸」が使われました。(稲植保美)



復元された自噴井戸

おもしろ・なつかし体験④

市民学芸員研修

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

難波田城公園では土日祝日のガイドやイベントの要員として「市民学芸員」が活動しています。その活動については、本号 1~3 頁でふれられているとおりですが、市民学芸員としてより広い視野を持つべく、講師による研修や現地見学などをしています。一昨年は、難波田城の祖『金子小太郎』の出身地である「入間市金子」を訪ねました。難波田氏の嫡流は天文 15 年(1546)の川越夜戦で滅びましたが、親族が家を継ぎ、北条家や徳川家に仕えました。難波田城は北条家が支配していましたが、天文 18 年(1590)の小田原合戦の後、

廃城になってしまいました。

今回の管外研修では、豊島区雑司が谷の鬼子母神のそばにある「威光山法明寺」を訪ねました。旗本となった難波田家の墓があるお寺です。目的の墓域は 30 m²程の敷地で「難波田家之墓」を中心に、寛永の年号がある墓石など 10 基の墓石と墓碑が並び、供養のための多くの卒塔婆が立てられていました。

私たちが日頃活動している難波田の地名を名乗った難波田氏の子孫の墓に接することにより、その歴史を身近に感じました。(小森和雄)



人の創ったもの★人の使ったもの

南畑地区の用水路

江戸時代の二間堀

江戸時代に南畑地区（大久保村・上南畑村・下南畑村・南畑新田）の用水路として使われていたのが二間堀です。伊佐沼（川越市）を水源とし、古谷上村・小中居村・今泉村・久下戸村・渋井村を経て下南畑村に至る長さ約 3 里（約 12km）の水路でした。二間堀は下南畑村の名主小山作兵衛が中心となって開削工事を進めたという伝承があることから「作兵衛堀」とも呼ばれています。二間堀は距離も長く幅（底で 1.8m）も狭かったため、南畑に十分な水が届きませんでした。不足を補うために、突き抜き井戸を掘ったり、新河岸川を堰止めて取水したりしました。

図 1 は、享和元年（1801）に田の水はけをめぐる争いで大久保村が上南畑村を訴えた際に作成された絵図です。この中に大久保村と上南畑村を流れる二間堀の様子が描かれています。新河岸川の右側、ほぼ直線状に描かれているのが二間堀の本流です。また、支流が何本か描かれています。矢印から分れる支流は下南畑村用水堀と記されています。他の支流が大久保村・上南畑村内で止まっているのに対して、下南畑・南畑新田方面に向かっていることから、本流に準ずる支流であったと考えられます。

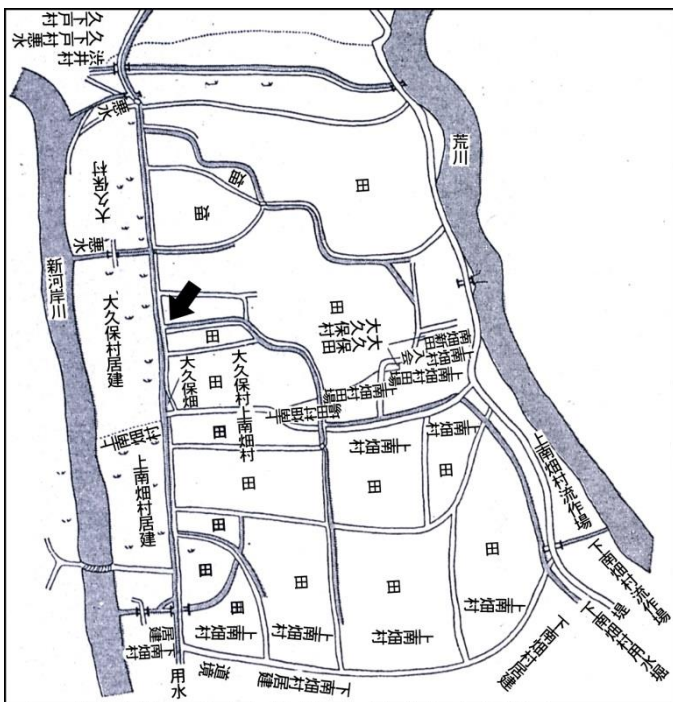


図 1 大久保村・上南畑村境堤置土出入立合絵図
トレース図(部分) ※矢印を加筆

このコーナーでは、当館所蔵の資料を紹介しつます。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

二間堀の流路

明治 14 年（1881）3 月に測量された迅速測図には二間堀の流路が水色で示されています。これを現在の地図にあてはめると、県道川越新座線に沿って川越市から富士見市に入った二間堀はそのまま南下を続けます。そして、南畑交差点で県道から離れ、東武バスの興禅寺入口バス停付近に至ります。迅速測図ではここで途切れていますが、末端部分で水路が細くなったために表記されなくなったものと思われます。なお、二間堀跡の一部は暗渠化され、県道の歩道として利用されています。

古南用水

二間堀に代わって南畑地区の用水路となったのが、昭和 7 年（1932）から 12 年にかけて行われた県営荒川右岸用排水改良事業で整備された古南用水です。古南揚水機場を設置して荒川から取水し、川越市内の本郷用水と、富士見市内の二間堀を改修して水を流しました。現在の東大久保交差点からは二間堀の本流を、ローソンの少し北側、車地蔵が立っている場所（図 1 の矢印と同じ場所）からは支流を利用して整備されました。（山野健一）



図 2 南畑村耕地整理基本調査
実測平面図(部分、昭和
11・12 年調査)※一部加筆

夏のイベント予定

富士見市の歴史を学ぼう

～第 6 期市民学芸員養成講座～

資料館のボランティアである市民学芸員。平成 27 年 4 月から活動する第 6 期市民学芸員の養成講座(基礎講座)を開催します。富士見市外の方も、また年齢を問わずどなたでも受講できます。基礎講座は全 8 回で、6 回以上の出席で修了です。基礎講座修了者は専門講座(4 回程度)を受講し、修了すると市民学芸員として登録することができます。

登録の予定はなくても、郷土の歴史や文化に興味のある方の参加をお待ちしています。

※博物館法で定める学芸員資格を取得できるものではありません。

	期日	内容
第1回	8月30日	富士見市のむかし① - 旧石器・縄文時代 -
第2回	9月13日	富士見市のむかし② - 弥生・古墳・奈良・平安時代 -
第3回	10月4日	富士見市のむかし③ - 鎌倉・室町・戦国時代 -
第4回	10月18日	富士見市のむかし④ - 江戸時代 -
第5回	11月1日	富士見市のむかし⑤ - 明治・大正・昭和時代 -
第6回	11月15日	富士見市のむかし⑥ - 市内の文化遺産 -
第7回	11月29日	体験事業の実践 - 水子貝塚資料館編 -
第8回	12月13日	体験事業の実践 - 難波田城資料館編 -

※日時は、いずれも土曜、午後1時30分～3時30分

会場／難波田城資料館講座室

定員／50名 参加費／無料

申込み／随時。お電話か直接

●竹かご教室

日時／6月22日(日) 午前9時半～午後4時

定員／10名(中学生以上、申込順、初参加者優先)

参加費／1000円(材料代)

指導／資料館友の会竹かご部会

申込み／6月3日から10日。お電話で

●じゃがいも掘り

日時／6月22日(日) 午前10時～正午

定員／30組(申込順)

参加費／1組1000円

主催／難波田城公園活用推進協議会

申込み／6月3日(火)からお電話で

●ゆかた着付け教室

日時／6月28日(土) 午前10時～正午

定員／15名(中学生以上、申込順)

参加費／無料 指導／和道文化着装協会

申込み／随時。お電話で

●ふるさと体験「藍の生葉染め」

藍の葉で絹のストールを染めます。

日時／7月26日(土) 午前9時30分～正午

※雨天の場合は27日(日)に延期

定員／10人(申込順、初参加者優先)

材料代／2000円

指導／河野悦子氏(染色愛好家)

申込み／7月1日(火)から6日(日)。お電話で

●糸紡ぎ体験

とき／7月31日、8月7日、21日、28日

午前10時～正午 午後1時～3時

内容／糸車で綿花(ワタ)から木綿糸をつむぐ体験をします。(5～10分程度)

対象／子ども～大人 参加費／無料

申込み／時間内に直接ご来場ください。

指導／資料館友の会木綿部会



●夏休み古民家宿泊体験

日時／8月2日(土) 午後1時～3日(日) 午後1時

内容／竹細工(コップや箸)、手打ちうどん作り、ごえもん風呂、七輪で焼き魚など

定員／16人(市内在住の小学4～6年生)

参加費／1500円(材料費・食費)

申込み方法／広報7月号をご覧ください。

●子ども裁縫教室～巾着袋を縫おう～

日時／8月6日(水) 午前10時～午後2時

定員／15人(小学生～中学生※小学2年以下は保護者同伴、申込順)

参加費／200円(材料代) 指導／美楽の会

申込み／随時。お電話または直接

●早朝の蓮が見学できます

蓮が、7月に見ごろを迎えます。花が開いた直後の姿を見られるよう、7月の土・日・祝日は、午前6時に開園します。なお、資料館や古民家は通常どおり午前9時に開きます。

●ちよっくら市(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月22日 ふかしいも 7月27日 流しそうめん

8月はお休み

※時間は午前11時から。売切れ次第終了です。

※各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどをご覧ください。



編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665
富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時
◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)